

令和5年度

市立旭川病院
業務・決算報告

～市立病院ってどんな病院なの？～

令和6年(2024年)10月

市立旭川病院

目 次

はじめに	1
I 市立旭川病院はどんなところ？	2
1 どんな病院なの？	2
2 どんな特色があるの？	4
II 市立旭川病院の経営状況はどうなの？	5
1 令和5年度の決算は？	5
2 医療の提供による収支はどうだったの？	6
3 器械の購入などの設備投資はどうだったの？	7
4 令和5年度は市立病院でどんなことがあったの？	8
5 経営状況の推移はどうなの？	9

市立病院のシンボルマーク



ハートの形のピンクとオレンジは、大人と子どもを表しています（患者さんやご家族）。ハートを囲む緑の輪が、病院で働く職員を表します。ピンクは「子どもを守る大人の優しさ」を、オレンジは「子どもの元気さや明るさ」を、緑は「森のような深い優しさ、温かさ」を意味します。

病院は、不安な気持ちでいっぱいな患者さんやご家族を温かな優しさで包み込み、心も体もケアしてくれる場所というイメージを表現しています。このマークのコンセプトは、「包み込む優しさ」です。

はじめに

市立旭川病院は、診療科25科、病床数481床を有する市内有数の公的医療機関として、令和5年度では入院で延べ約9.5万人、外来で約21.1万人の患者を診療し、地域医療の提供に大きな役割を果たしています。

令和5年5月に、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の2類相当から5類に移行されましたが、引き続き高齢者等の重症化リスクの高い患者を積極的に受け入れるなど、当院の基本理念と基本方針の精神に則り、市民の皆様が安心して暮らすことができるよう、職員が一丸となって努力を続けています。

一方で、コロナ対応による国や道の補助金等の縮小や原材料・燃料などの物価高騰に加え、新型コロナウイルス感染症の影響で減少した患者数は回復傾向にあるものの、依然として流行前の水準までは戻っておらず、病院経営にとって厳しい状況となっています。

この冊子は、令和5年度の決算内容を中心に作成しましたが、当院の経営状況のほか、当院の役割や取組なども合わせて、ご理解いただければ幸いです。

市立旭川病院の基本理念と基本方針

《基本理念》

患者さん中心の医療を行い、市民から信頼される病院を目指します。

《基本方針》

- 1 高度医療を担い、安全で質の高い医療を提供します。
- 2 地域の病院・診療所と連携し、地域医療の向上に努めます。
- 3 救急医療を担い、市民に安心な医療を提供します。
- 4 公共性を確保し、健全な病院経営に努めます。
- 5 教育研修を充実し、人材育成に努めます。

I 市立旭川病院はどんなところ？

1 どんな病院なの？

市立旭川病院は昭和5年に旭川市立診療所として開設されて以来、道北一円の基幹病院の一つとして、旭川市民をはじめ広く道民の方々の身体の治療や心のケアのため、良質で安全な医療サービスを提供しています。

(1) 地域がん診療連携拠点病院として

循環器・消化器領域をはじめとした各診療科において、高度先進医療を提供しており、がん治療においては、治療の三本柱である、手術・化学療法・放射線治療を行っています。特に、消化管がんの精密診断と最新の内視鏡治療を積極的に行っているほか、手術支援ロボット「ダヴィンチ」や放射線治療機器「リニアック」など、最新の医療器械を導入することで、高度医療の提供と地域医療の質の向上に努めています。

また、多くのがん患者さんの診療に当たるとともに、地域のがん診療水準の向上に努めており、活動の一つとして、がん患者さんやご家族による患者会の支援や協働にも取り組んでいます。



手術支援ロボット
「ダヴィンチ」



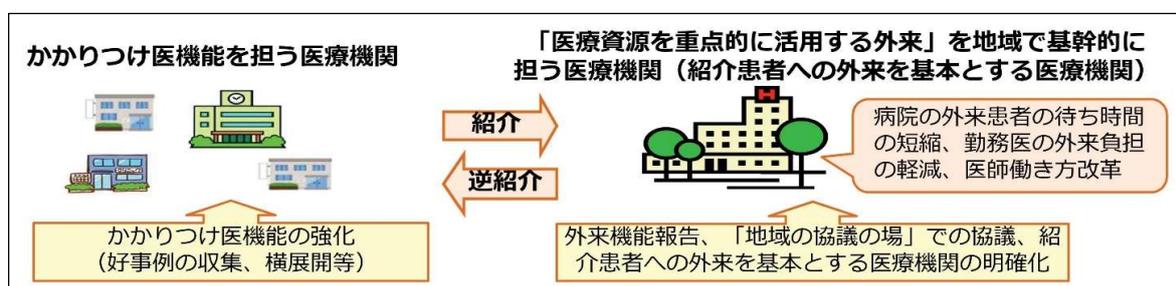
放射線治療機器
「リニアック」

(2) 地域における医療連携体制について

地域でより良い医療を提供するためには、近隣の医療機関と役割を分担し協力し合うことが必要です。

当院は、地域全体の医療の質を向上させ、患者さんが必要な医療を迅速に受け入れられる体制を構築するため、令和5年8月1日に、「紹介受診重点医療機関」として北海道から指定・公表されました。

今後も、地域の医療機関と連携し、限られた医療資源を最大限生かしながら、急性期病院として質の高い医療を安定的に提供することで、この地域における公立病院としての役割を果たしてまいります。



(3) 感染症指定医療機関として

当院は、感染症指定医療機関として、危険性が高い感染症の治療のほか、早期発見、拡散防止といった重要な役割を担っています。

新型コロナウイルス感染症の流行時には、状況に応じて一般診療の制限をしながら、多くの患者さんを受け入れてきました。



シャワー室を完備した感染症病棟の個室



新型コロナウイルス患者への対応

そのほか、民間の病院では実施が難しい不採算医療を担うなど、公立病院としての使命を果たしながら、市民から信頼される病院を目指しています。

2 どんな特色があるの？

■ 感染症指定医療機関

道北で唯一の感染症病棟を保有

当院は、感染力や重篤性の観点から危険性が高いとされる第二種感染症患者を受け入れることができる感染症病棟を保有しています。

■ 夜間急病センター

24時間365日、医療を提供

夜間急病センターを当院で運営することにより、夜間の一次救急を担い、いつでも医療を受けられる体制づくりに貢献しています。

■ 精神科

市内の多くの身体合併症患者を引受け

精神科病棟100床を有する総合病院として、身体の病状を抱えた精神疾患の患者さんに、精神科以外の診療科と連携して治療に当たっています。

■ 小児一次救急

準夜間帯小児診療の負担軽減、利便性向上

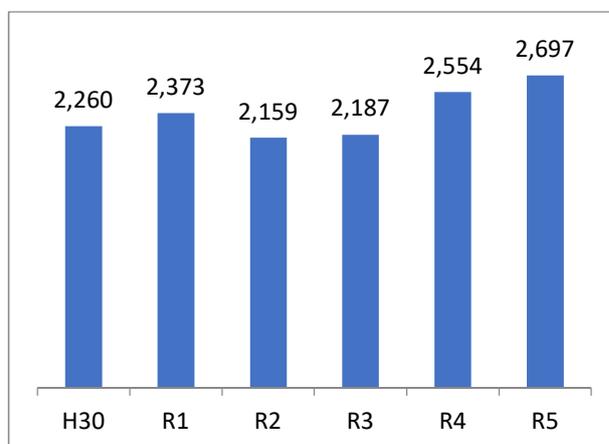
準夜間帯の小児診療は、市内の小児科医などが当院で診療を行うことで、地域の医療機関の負担を軽減するとともに、受診者の利便性を図っています。

■ 2次救急

輪番5病院の一つとして救急車を受入れ

重症患者を休日・夜間を問わず24時間体制でケアするため、市内の5病院で当番制により診療を実施。当院は、その病院の一つとして役割を果たしています。

救急車搬入件数（件）



人員に限りがある中でも、救急車の搬入を可能な限り受け入れています。

Ⅱ 市立旭川病院の経営状況はどうか？

1 令和5年度の決算は？

当院では、主に医療の提供に係る収入と支出をまとめた「収益的収支」と、医療器械の購入や借入金などの投資に係る「資本的収支」に分けて収支状況を管理しています。

収益的収支では、物価高騰の影響などで、5億9,907万円の赤字となり、資本的収支も、借入金の返済などにより、5億543万円の赤字となりました。

収益的収支と資本的収支の合計である総収支に内部留保資金を加算した結果、年度末資金残高は、前年度末資金残高から大きく減少し、10億4,783万円となっています。

【予算と決算】

		予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B-A)
収益的収支	収入 入院収益など	129億13万円	121億2,306万円	△7億7,707万円
	支出 給与費・薬品費など	135億2,134万円	127億2,213万円	△7億9,921万円
	差引	△6億2,121万円	△5億9,907万円	
資本的収支	収入 借入金など	16億4,939万円	15億5,132万円	△9,807万円
	支出 医療器械の購入など	21億5,395万円	20億5,675万円	△9,720万円
	差引	△5億456万円	△5億543万円	

※予算額は、当初予算額・補正予算額の合計額です。

※資本的収支には前年度から繰り越した額、収入771万円、支出774万円を含んでいます。

【年度末資金】

前年度末資金残高	当年度資金収支	当年度末資金残高
20億6,861万円	△10億2,078万円	10億4,783万円

2 医療の提供による収支はどうだったの？

当院は、主に診療による収入により経営を行っていますが、公立病院の役割の一つである不採算医療については、その一部に旭川市からの負担金が充てられています。

費用については、主に医師・看護師・薬剤師等の人件費のほか、薬品などの購入費、建物や医療器械の維持管理費に支出しています。

医療の提供にかかわる収支決算（収益的収支）

【収入】

項目	収入額	説明
医業収益	99億972万円	入院や外来での医療行為に係る収入です。
負担金・補助金	12億5,106万円	不採算医療に関する負担金などです。
長期前受金戻入	8億4,469万円	減価償却費等に見合う補助金収入などです。
その他	1億1,759万円	駐車場の使用料などです。
収入合計	121億2,306万円	

【支出】

項目	支出額	説明
給与費	63億1,431万円	職員の人件費です。
材料費	32億161万円	診療に使用する薬品や診療材料などの購入費です。
経費	20億9,739万円	建物・医療器械の維持管理費や患者さんの給食や窓口業務の委託料などです。
減価償却費等	8億3,076万円	建物や医療器械などの使用に伴う資産価値減少分です。
研究研修費	4,760万円	医療の質を保つために必要な医師・看護師・薬剤師等の研修費などです。
支払利息	1,697万円	借入金の返済利子です。
その他	2億1,349万円	税務署に納める消費税などです。
支出合計	127億2,213万円	

3 器械の購入などの設備投資はどうだったの？

当院は、日々進歩する医療技術に対応し、高度な医療ニーズに応えるため、医療器械の整備・更新を毎年度行っています。また、老朽化した施設の改修を計画的に実施することで、安全で安心な院内環境の確保に努めています。

令和5年度は、先進的な手術が可能となる「腹腔鏡・胸腔鏡手術システム」や、血液検査等を効率的に行うための「血液検査総合システム」, 「採血採尿受付機」を購入したほか、空調用設備である「吸収式冷凍機」の更新工事などを行いました。



血液検査総合システム



採血採尿受付機



吸収式冷凍機の更新

設備投資にかかわる収支決算（資本的収支）

【収入】

項目	収入額	説明
企業債	8億1,340万円	医療器械等を整備するための借入金です。
一般会計負担金	7億3,431万円	借入金返済等のための旭川市の負担金です。
補助金	241万円	医療器械を整備するための補助金です。
返還金	120万円	奨学金の返還金です。
収入合計	15億5,132万円	

【支出】

項目	支出額	説明
建設改良費	8億4,742万円	
建物	4億6,606万円	建物の工事費です。
構築物	893万円	構築物の工事費です。
器械備品	3億7,243万円	医療器械の購入費です。
企業債償還金	11億9,853万円	借入金の返済元金です。
投資	1,080万円	看護師等奨学金の貸付金です。
支出合計	20億5,675万円	

※収入と支出の差額5億543万円については、過年度分損益勘定留保資金等で補っています。

4 令和5年度は市立病院で どんなことがあったの？

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、厳しく制限されていた入院患者との面会を一部可能としたほか、「地域医療連携のつどい」を4年ぶりに一堂に会して開催するなど、新型コロナウイルス感染症流行時には禁止・自粛していた行動が再開されはじめました。

また、紹介受診重点医療機関に指定されたことによる診療単価の向上や、患者数の増加に向け作成したPR動画の配信など、経営改善に向けた取組を実施してきました。



地域医療連携のつどい講演会



市立旭川病院紹介動画
市立旭川病院 公式チャンネル
チャンネル登録数 404人
日本の医療機関による動画コンテンツ
世界保健機関 (WHO) による定義、検査実施法の改定に合わせ、
2022 年改定 4 分動画
市立旭川病院は、「患者さん中心の医療を行い、市民から信頼される病院を目指します」を基本理念に、進化の医療機関として安全で確かな「医療の提供」を心がけております。...もっと見る

PR動画の配信開始

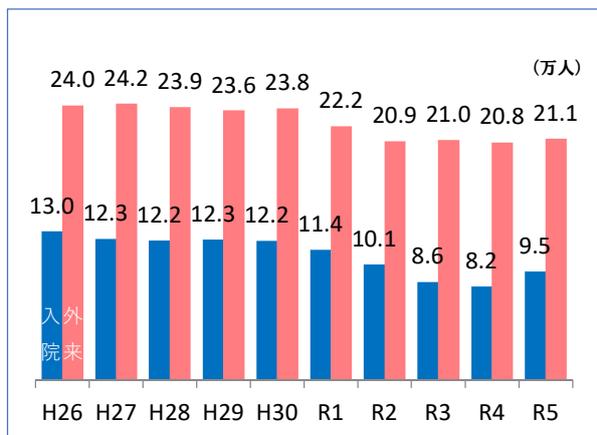
令和6年1月1日、石川県能登半島を震源とする能登半島地震が発生し、中部地方、近畿地方の一部に甚大な被害がありました。被災地域に住む方の健康・生命を守り公衆衛生を回復させるため、当院もJMAT（日本医師会災害医療チーム）の一員として、2度に渡り被災地に向かい支援に当たりました。



(左上) 出発式 (左下) 金沢市保健所でのミーティング
(右) 被災地における活動の様子

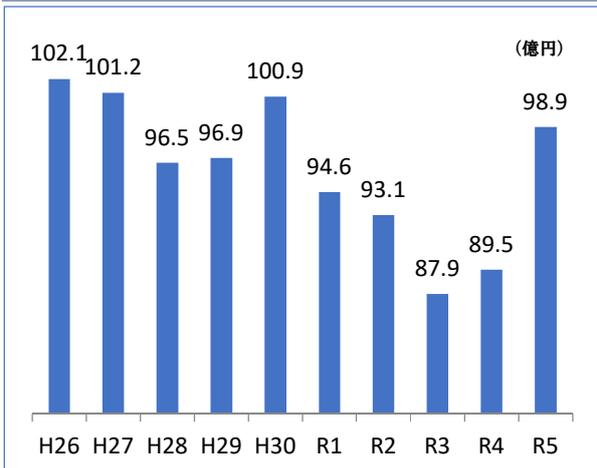
5 経営状況の推移はどうかの？

延べ患者数の推移



令和5年度は入院と外来を合わせて年間約31万人の患者さんの診療に当たりましたが、前年度と比較して患者数は回復傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症流行前の水準には戻っておらず、さらなる増加に努めています。

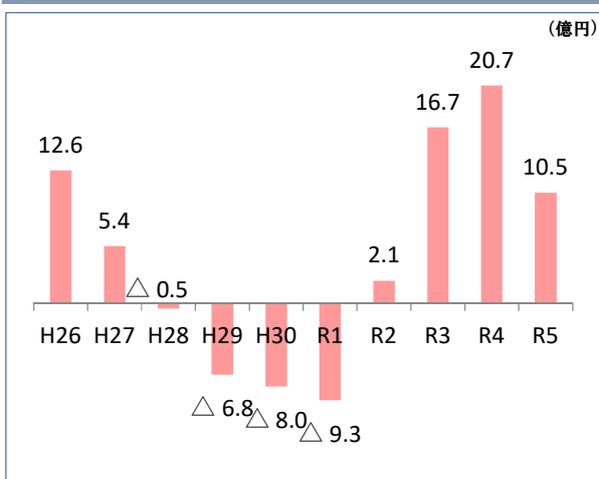
医業収益の推移



令和5年度は、患者数が回復したことや、患者一人当たりの単価が上昇したことで、診療による収入は前年度から大幅に回復しました。

しかし、物価高騰などにより医業費用も増加しており、地域に必要な医療を提供するためには、安定した運営が必要なため、健全な経営に向けて改善に努めています。

資金残高の推移



一般家庭でいう貯金額等に相当する資金残高は、新型コロナウイルス感染症に係る補助金の活用等により増加していましたが、補助金の縮小により今年度は大幅に減少しました。

強固な経営基盤の構築に向け、引き続き改善に努めていきます。

令和5年度 市立旭川病院
業務・決算報告
～市立病院ってどんな病院なの？～

発行：令和6年（2024年）10月

編集：市立旭川病院事務局経営管理課

070-8610 旭川市金星町1丁目1番65号

TEL：0166-24-3181 FAX：0166-27-8505

<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/hospital/>